

NEXCO中日本は、日本道路公団の分割民営化により2005年10月1日に設立してから2025年で20年の節目を迎えます。この20年で当社グループが進めてきた取組みについて、ご紹介します。

高速道路ネットワークは大きく拡大しています

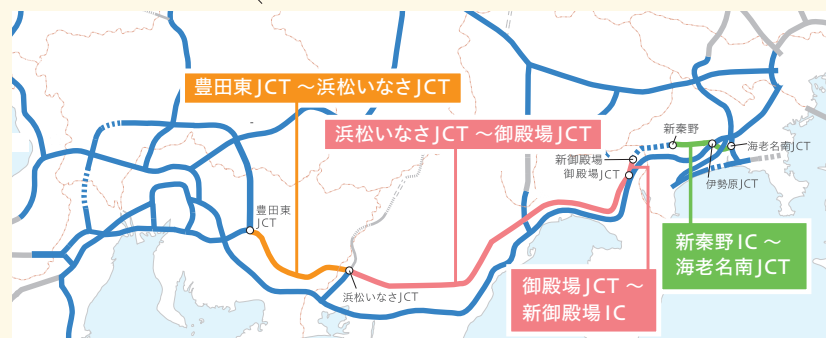
当社の営業延長2,201kmのうち、4分の1にあたる552kmはこの20年間で新たに開通しました。東名高速道路や中央自動車道など当社設立前から整備されていた路線に加え、新たに全線開通した路線や既存路線と並行する路線の整備など、ネットワーク拡大の効果は多岐に渡ります。

また、高速道路の開通だけではなく、スマートICの整備により高速道路の利便性が向上しています。スマートICは、2004年に行われた社会実験を皮切りに2006年から本格的な整備が始まり、当社管内だけでも55カ所に整備されています。(2025年4月時点)

新規開通が完了した路線



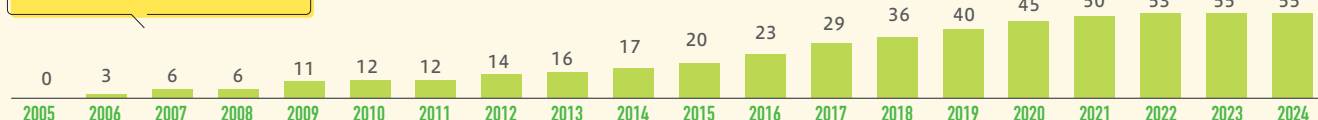
大幅に整備が進んだ路線<新東名高速道路>



新東名高速道路建設の変遷

2012年	御殿場JCT～浜松いなさJCTが開通(清水連絡路・いなさ連絡路同時開通)
2016年	浜松いなさJCT～豊田東JCTが開通
2017年	新静岡IC～森掛川ICで試行的に最高速度を110km/hに引き上げ
2018年	海老名南JCT～伊勢原JCTが開通
2020年	伊勢原JCT～伊勢原大山ICが開通 御殿場JCT～浜松いなさJCTが全線6車線化、最高速度を120km/hに引き上げ
2021年	新御殿場IC～御殿場JCTが開通
2022年	伊勢原大山IC～新秦野ICが開通

スマートIC設置数



ネットワーク拡大は地域に大きく貢献しています

効果① 渋滞解消 新東名高速道路 / 新名神高速道路

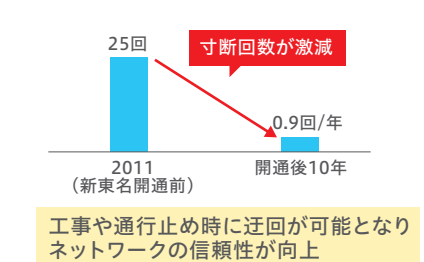
ダブルネットワーク化により渋滞が大幅に減少し、通行止めによる寸断回数も大きく減少しました。



東名阪道(四日市JCT～亀山JCT)の渋滞回数

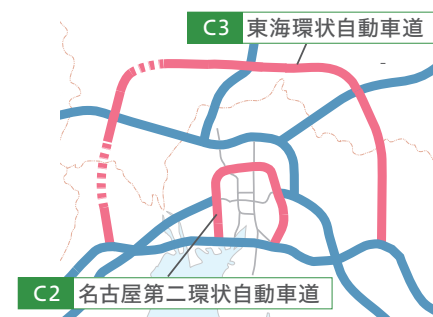


東西交通の寸断回数

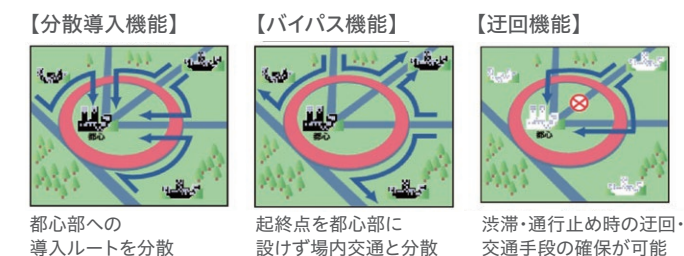


効果② 幅広いルート選択 名古屋第二環状自動車道 / 東海環状自動車道

中京圏の高速道路網の充実により、目的地や道路状況に応じて最適なルート選択が可能になりました。



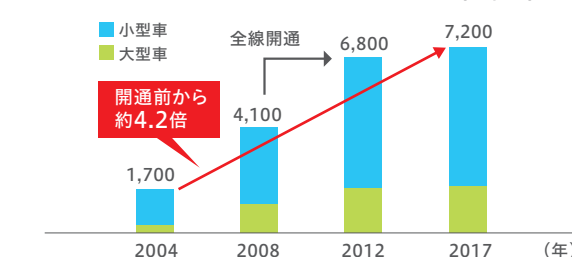
環状道路の持つ機能



効果③ 時間短縮・経済効果 東海北陸自動車道 / 中部横断自動車道

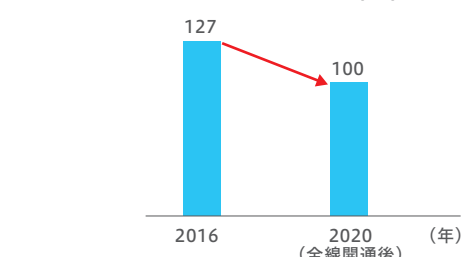
東海北陸自動車道(全線開通)

白川郷IC～五箇山IC間の交通量推移(台/日)



中部横断自動車道(静岡～山梨間全線開通)

甲府市～清水港の所要時間(分)



NEXCO 中日本のあゆみ

◆より見やすいトンネル照明

トンネルではプロビーム照明※を採用したり、照明をLED化するなど、視認性の向上に取り組んでいます。

※プロビーム照明…進行方向への照明光の照射を増やす方式



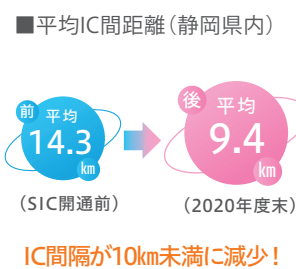
◆アスファルト舗装の高性能化

路面表層に水が残りにくい排水性と騒音を抑える静穏性に優れた高性能舗装を進め、快適に走行できるよう取り組んでいます。



◆スマートICの浸透

2006年から本格導入されたスマートIC。高速道路へのアクセスが容易になったことで、移動時間短縮、企業誘致・住宅開発の促進、地価の上昇といった好循環も生まれ、沿線地域の魅力向上につながっています。



◆高速道路リニューアル・プロジェクト

供用後30年を経過する道路が全体の約6割を占める中、老朽化に伴う構造物の補修は増加傾向にあり、橋やトンネルの修繕を含めた大規模なリニューアル工事を計画的に進めています。

構造物の老朽化等により、補修に掛かるコストはこの20年間で約6倍になっています！

※2005年を100とした場合の比較



◆既存路線の機能向上

4車線化・6車線化事業を進め、交通流量を増やすとともに、災害に強い道路づくりに取り組んでいます。2024年には富山県・岐阜県に新たな工事事務所を設置し、事業を推進しています。



東海北陸道 真木トンネル・北谷橋(富山県)

◆魅力あるサービスエリアの展開

移動中の休憩としての機能が中心だったサービスエリアの魅力を上昇させるために、商業施設ブランド『EXPASA(エクスパーサ)』『NEOPASA(ネオパーサ)』の立ち上げをはじめ、地域のPR拠点としての機能充実(地域店舗の誘致・地域と連携したイベント開催など)や、お客さまの目的地となるようなサービスの導入に取り組んでいます。これからもお客さまの期待にお応えできるよう、サービスエリアの魅力向上をめざしていきます。



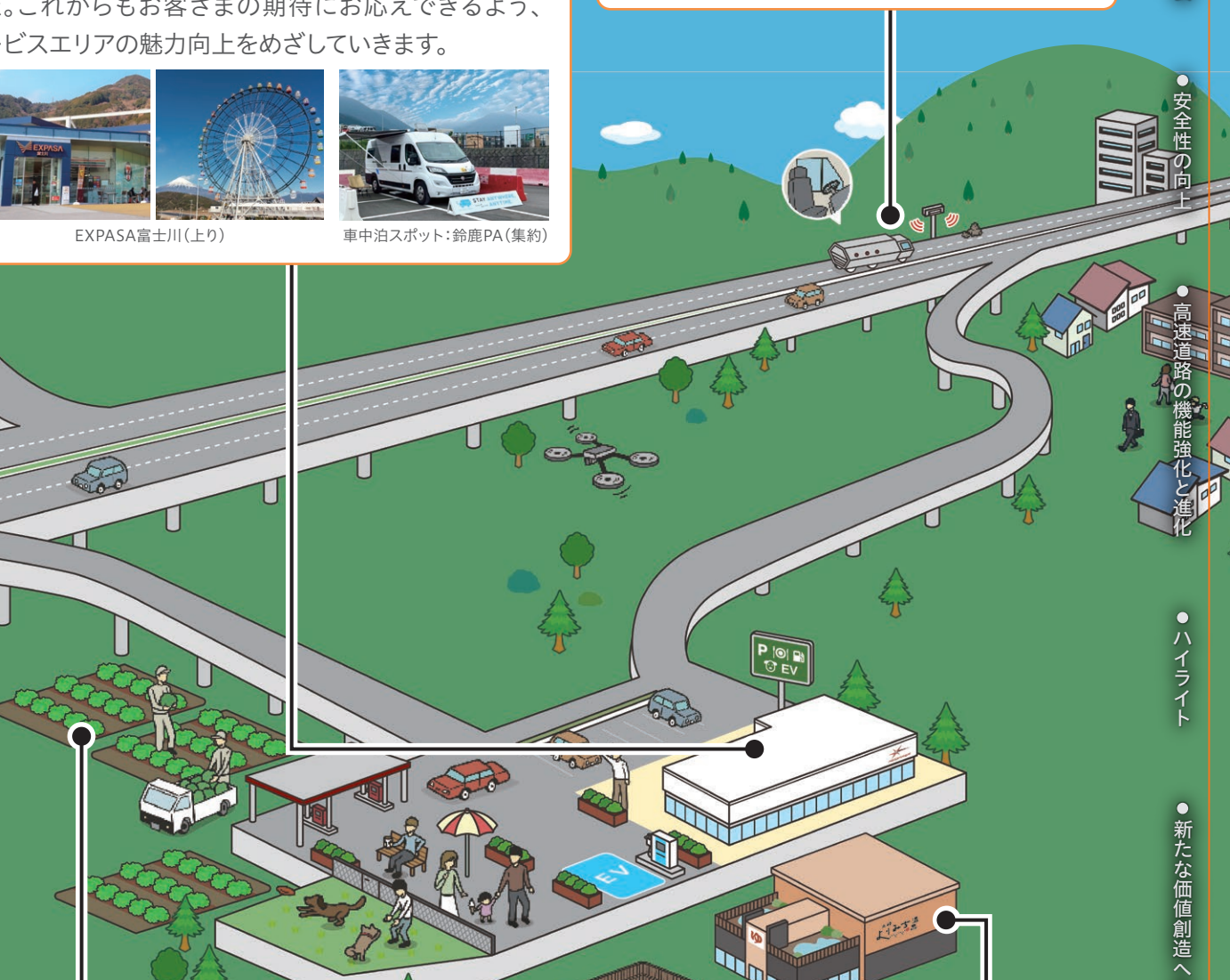
EXPASA富士川(上り)



車中泊スポット: 鈴鹿PA(集約)

◆将来に向けた先進分野(ハイライト)

高速道路の新しい価値創造に向け、i-MOVEMENT(次世代技術革新による高速道路保全マネジメント)やi-Construction(ICT活用による建設現場の高度化・効率化)、完全自動運転実現に向けた実証実験などに取り組んでいます。



◆地域社会への貢献

高速道路沿線の地域活性化と暮らしの向上をめざして、地域と連携した取り組みを続けています。小・中学校への出前授業や、近隣の大学との共同研究、地域と協働したボランティア活動の実施など、地域との結びつきを大切にしています。



中学校での社会授業



茶畑でのボランティア

◆新たな事業への挑戦

高速道路で培ってきたノウハウ・技術を活用して、これまでにインターチェンジ周辺開発事業、不動産事業、農業、物流事業、海外事業などを立ち上げ、新たな価値を生み出してきました。これからは新たな事業に挑戦していきます。



Terrace Gate



インターチェンジ周辺開発事業「テラスゲート土岐」